

深阪校区

深阪の町は、伏尾釜室線の通る丘陵と、田園・辻之村のある陶器丘陵との間の、前田川沿いに開けた谷間の町である。



前田川沿いに建つ家並み



深阪のメインストリート



旧村の民家



深阪小学校



深阪

ってどんなところ？

深阪の町は、昭和57年に土地区画整理事業により完成した新しい町と、それ以前からある旧村が隣り合っている所です。

そして、その歴史は古く古墳時代のものと見られる窯跡が、近くで確認されたりして太古の昔から人々が暮らしていた様です。

ところが、この町には古代から中世にかけての遺跡や、神社仏閣等が殆ど残されておらず、少ない文献で江戸時代以降の歴史がかいま見れる程度なのです。

そんな古くて新しい町が深阪です。

昔は竹林が多かったそうです。今もこうしてそこかしこに残っています。



隣村との境界付近の崖に茂る森。こういう森に囲まれていたのでしょうか。



深阪を歩く

この道を歩くと、坂の多い谷間の地形や、昔の道と古民家などと出会い、昭和以前の深阪が垣間見えます。

川沿いに残る田圃。昔はこの一帯に田園風景が広がっていたのでしょうか。



深阪を守る
お地藏様



西は坂、東は崖で、おおむね南から北へ緩やかに下っています。それが深阪の景色。

東の丘陵からみた深阪

西の緩やかな坂

わずかに残る田畑

西側に多い坂

深阪は

どこも

水路が沢山ある

かしこも

東の崖に建つ家

立派なお屋敷

里道

坂だらけ

西側の緩やかな坂

立派な門構え

深阪を守るお地藏様

桜坂

北側を下る緩やかな坂

深阪

探検 村に残る昔

不思議で、心温まる、懐かしい昔の道

昭和35年の深阪村



昭和57年区画整理完成



基本的に、新道は直線で旧道は曲線です。



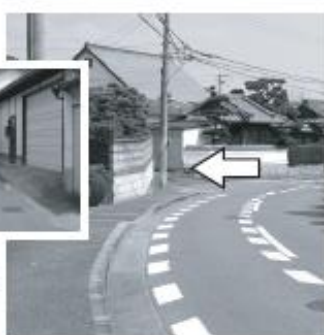
昔の雰囲気を残した懐かしい道。その昔映画のロケがあったそうです。



一般的な村内の道
昔はもっと狭かった。



人一人がやっと通れる、不思議で懐かしい道達。



矢印の道を入ると急に開けた場所にでる。その右側に又不思議な細い道が……。



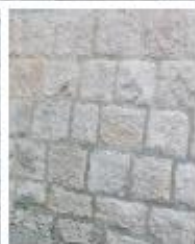
深阪村の景色。 古い民家

深阪にはまだ沢山の古い建物が残されています。
そんな建物を見たり地域を歩いていると、ふと
昭和以前にタイムスリップしたようなしたような
不思議な感じになります。
そんな感じを味わいに深阪に来ませんか？



深阪村の景色。 石垣

深阪村は坂の途中に建っている家が多く、
そのため土止めの石垣も多く、種類も豊富です。



深阪

こぼれ話

深阪村は歴史のある地域で、此处へ引っ越して来た町の人達が聞くと興味深く、おもしろい話が沢山ありそうです。

医者が馬で往診していた

大正から昭和にかけての事と思われるが、お医者様の往診には馬が使われていた。

その時使っていた馬小屋
(今はもうない)



今も残る医院の建物見えている小窓は葉の渡し口



土佐屋

地名の起りは、大阪商人であった土佐屋七左衛門が、300年ほど前に開墾して土佐野と名づけたことである。20数年前までは酪農が盛んで、乳牛の声が聞こえ、牛糞の香りが漂っていた。この香りがニュータウンにまで届く事があって、当時新しい公害などと呼ばれていた。もちろん今はない。



土佐屋の町並み

マンションのプレートに牛のマーク



道に落ちてる石臼。
油を搾っていたのだろうか？



菜種油を搾っていた

江戸中期頃から灯火の油が荏胡麻から、より多く油の採れる菜種に変わった。

その菜種油を搾る製油所がこの深阪の川筋に集まり、水車を利用して明治の中頃まで油搾りの仕事をしていた。

豪農が多かった

深阪の農家は他村と比べて耕作面積が抜きん出て広く、機械化が発達していない当時としては農家の労力は大変であった事から、近郷では「深阪に嫁にやると言えば泣く娘も黙った」と言われていた。



伊勢神楽

決まった時期になると、外から乾いた太鼓の音が聞こえて来ます。

伊勢神楽が旧村の軒先を巡っています。

ずっと昔から続いている風景なのでしょう。



ほんとの所は粉を
挽いていた石臼だ
そうです。